

式辞

本日、ここに令和2年度、第73回福井県立敦賀高等学校「卒業証書授与式」を挙げるに当たり、PTA会長、碓望様、同窓会会長、河瀬一治様、定時制教育振興会会長、橋本敦夫様、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、卒業生の皆さんを祝福できますことは、この上ない喜びであります。卒業生はもとより、私ども教職員、並びに在校生を代表しまして、心からお礼申し上げます。

ただ今、全日制二百六十九名、定時制十五名の皆さんに、卒業証書を授与いたしました。

保護者の皆様には、お子様が、本校での課程を、無事修了され、本日の、晴れの卒業の日を迎えられましたこと、さぞ、お喜びのことと存じます。

教職員を代表し、心から、お祝い申し上げますとともに、これまで、本校にお寄せいただきました、ご理解とご協力に対しまして、深く、感謝を申し上げる次第でございます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。今、ここに、本校の卒業生にふさわしい人間として、誇りを持って巣立つことは、皆さん自身の、喜びであると同時に、皆さんの成長を、見守ってこられました、保護者の皆様、地域の皆様、そして、私たち、教職員の喜びでもあります。

敦賀高校で経験した全てのこと、成功だけでなく失敗も、仲間との楽しい思い出とともに、つらい思い出さえも、皆さんの力となるはずです。社会のために有為な、信頼される人物として、さらに大きく、成長していただきたいと思います。

さて、トヨタ自動車は、先月、未来型都市、名付けて「Woven City」の建設をスタートしました。これまで蓄積してきた、自動運転やAIなどの、最先端テクノロジーを活用した街づくりに、乗り出したのです。世の中が大きく、変わっていく予感がします。

一方で、時代が変わろうと、また生活環境が変わろうと、良好な人間関係を築くことの重要性は変わりません。今後皆さんは、進学や就職をしていかれます。そして、多くの人とともに、時間を過ごしていくことになります。初めての仕事や、なじみのない言葉、考え方に会う時、我々は戸惑います。自分だけで、物事をやり遂げようとする姿勢は重要ですが、できることと、できないことがあることを知ることも大切です。友達や同僚、時によっては年上の方に、何らかのお願いをする場面もあるでしょう。このことは、皆さんが働くことになる職場に限らず、学校や家庭内、地域社会でも起こりえます。集団として活動する場合、一人だけが、最高の成果を上げるのではなく、一人一人のパフォーマンスを高めることで、最大の結果を得るこ

とが大切です。この際、最も重要なことは、いかに、円滑な人間関係を築き、その上で物事を進めていくかです。1936年、アメリカで一冊の本が出版されました。その書名は、デール・カーネギー著「人を動かす」です。彼は、セールスマンとして成功をおさめ、講演会の講師として大活躍します。人間関係で役立つスキルとして、彼は【人を動かす三原則】を提唱しています。

一 相手を批判しない

人は、自分の判断基準で、物事を評価しますが、周囲の人たちにも考えがあり、それぞれの基準で行動しています。時には相手の言動に、憤りや不安を感じることもあるでしょう。ただその感情を、そのままぶつけてしまっては、相手の人格や考えを、否定することになりかねません。あなたにとっては「許容できない」行動でも、相手は相手なりの考えがあり、自分は正しい、と行って行動しているかも知れません。また、人は、自分のことを否定する相手に対して、心を閉ざしてしまいます。逆に、自分を肯定してくれる相手には心を許すものです。相手がなぜ、そのような思考や行動をとったのか、考えるようにしましょう。

二 素直で誠実な評価を行う

他人の言動について、良くないところばかり、指摘する人がいる一方で、人の良い面を、積極的に見つけようとする人がいます。人には必ず、長所と短所があります。普段から、人の良い面を探す習慣を身に付けましょう。

三 相手に強い欲求を起こさせる

人に、何かをするように頼まれても、なかなか行動に移せません。行動したとしても、それは「言われたから」や「怒られたくないから」という思いからで、そのような姿勢からは、創造性豊かな成果は、期待できません。相手が、どのように行動したいと思っているのか、相手の立場に身を置き、相手の視点から物事を考えましょう。

なお「人を動かす」は、現在でも、ビジネスパーソン必携の一冊として、確固たる地位を築いています。世界中で、1500万部以上売り上げている、大ロングベストセラーです。私は50歳を過ぎてから、初めて、この本を読みました。人生半ばを超えていましたが、これからでも、自身の生き方を変えることができる、と感じ、現在に至ります。感情を制御できない時もありますが、まだまだ成長過程にあると、前向きに捉えています。

最後に一編の詩を朗読します。

全日制の皆さんには、令和元年第1学期終業式で、定時制の皆さんには、前期終業式で紹介したものです。

アメリカの詩人、サムエル・ウルマンの詩、題は「青春」です。

「青春」

青春とは人生のある期間ではなく 心の持ち方をいう。

バラの面差し 紅の唇 しなやかな手足ではなく たくましい意志 ゆたかな想像力 もえる情熱をさす。

青春とは 人生の深い泉の清新さをいう。

青春とは 臆病さを退ける勇気 やすきにつく気持ちを振り捨てる 冒険心を意味する。

ときには 20歳の青年よりも 60歳の人に青春がある。

年を重ねただけで 人は老いない。

理想を失うとき はじめて老いる。

歳月は 皮膚にしわを増すが 熱情を失えば 心はしぼむ。

苦悩 恐怖 失望により 気力は地にはい 精神は芥になる。

60歳であろうと 16歳であろうと 人の胸には 驚異にひかれる心 おさな児のような 未知への探求心 人生への興味の歓喜がある。

君にも我にも 見えざる駆遣が心にある。

人から 神から美 希望 よろこび 勇気 力の靈感を受ける限り君は若い。

靈感が絶え 精神が皮肉の雪におおわれ悲嘆の氷にとざされるとき 20歳だろうと人は老いる。

頭を高く上げ 希望の波をとらえるかぎり80歳であろうと 人は青春の中にいる。

以上です。

皆さんが、豊かな人生を送られることを切に願い、式辞といたします。

令和3年 3月 2日

福井県立敦賀高等学校長 平松 正尚